

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 2	学校名	並木中等教育学校						課程	全日制		学校長名		井坂 孝			
副校長名	渡辺 隆文						教頭名		永井 英夫			副参事兼事務室長名		小神野 泰男			
教職員数	教諭	59	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	5	計	80
生徒数	学科		1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科		80	80	80	80	79	79	80	81	74	76	78	72	471	468	24

2 目指す学校像

- 1 様々な体験的な学習活動を通して広く人間教育を行う学校
- 2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校
- 3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育を行う学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	先生の授業力向上のための研究を充実させるため、授業ちょっと見週間を継続したい。目標を述べ参観数1,000回を目標に、充実させていきたい。今年度も公開研究授業を積極的に実施する必要があると感じている。並木中等内での授業改善のみならず、県内・県外へのAL授業やICT活用授業、理数探究の取り組みやTO学習、クロスカリキュラムなどを広める、先進校的役割を果たすことが期待されている。	・今後数年で、教員が急速に入れ替わることが予想される。その中で、並木中等としての授業の質をどのように維持、発展させるかが大きな課題である。 ・医学コース設置、他の公立中高一貫校の増設に対して、並木ブランドを確立することができかが課題である。
進路指導	進路実績としては先生・生徒の努力により、十分に成果を上げているが、客観的に見て、旧帝大・筑波大レベルを目指せる生徒の層が薄く、細く長い学力帯の学校となっている。	・生徒の授業への取り組み方、そして授業そのものの質の向上に努め、十分な学力を持った生徒の層を厚くすることが必要である。
生徒指導	上級生が下級生の模範となり、また指導助言が出来るよう投げかけてきた。教員による毎日の登下校・交通安全指導を行うことにより、基本的生活習慣（自律的な生活習慣、社会的マナー）の育成や交通安全意識の啓発及び徹底を図ってきた。 また、生徒個々の悩みや不安に応じる個人面談、SCとの協力連携も含め教育相談体制の確立と定期相談の実施に努めてきた。	・主体的・自律的な基本的生活習慣の育成 ・日常生活の諸問題を生徒が自ら解決する取組の充実 ・生徒、保護者の声を真剣に受け止め、学校・SCと家庭が連携協力して問題を解決する体制づくり
特別活動	生徒会活動、学校行事に積極的に参加する態度を育成している。3大行事と称される文化祭（かえで祭）・ウォークラリー・スポーツデイについては、実行委員会が組織され、異学年構成による自治的な運営を行っている。 部活動の加入率は約92%であり、昨年度から微増している。 年次ごとにキャリア教育を実施していたが、学習内容を次年度につなげる年次横断的な取り組みはできていなかった。	・生徒主体の活動推進による、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成 ・6年間の学校行事の体系化 ・学校教育の一環として教育課程との連携を図る部活動運営の工夫改善 ・キャリアパスポート事業の発足に合わせて、全年次統一されたデータでの保存を実施し、キャリア教育の連続性を高めていきたい。
働き方改革	教材研究等に熱心な教員が多く勤務時間超過の者が多数いる。業務の見直しが必要と思われる。	・業務量の適切な管理 ・勤務時間を大幅に超過する教員に対する個別指導

4 中期的目標

第3ステージに向けて本校は、中等教育学校としての可能性をさらに追求する。第2ステージの「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」から、第3ステージの「能動的な学びのできる人間力を備えたグローバルリーダーの育成をめざして」とする。

<目 標>

- 1 建学の精神・教育理念をもとに、生徒に科学的素養や国際感覚、高い学力を身につけさせるとともに、「人間力」を備えた次世代を担うリーダーとして育成する。
- 2 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校として、本校の教育の柱の一つの科学教育を推進しつつ、グローバル化社会が求める新しい教育を追求・実践し、全国に誇れる県立中等教育学校を目指す。
- 3 キャリア教育の視点のもと、全ての教育活動を展開し、進学指導を一層充実させる。高い志の実現、海外の大学も視野に入れた生徒の進路実現を目指す。
- 4 教職員の健康及び福祉の確保を図るため、業務量の管理を適切に行い、学校の教育水準を維持向上させる。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 意欲ある学校風土の醸成	○新しい時代に必要な資質・能力を育成する。 ・「アクティブ・ラーニング」の推進により「論理力」「日本語の4技能」を育てる。 ・ICTの効果的活用を工夫し、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。 ・縦割り活動を通して、生徒が協働して学ぶ態度やリーダーシップを育てる。
2 志高く、進路実現に向かう生徒の育成	○体験活動を充実し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。 ○キャリアカウンセリングを実施し、生徒の意思を汲んだ相談を実施する。
3 SSH事業第3期目にむけての新たな取組	○学校設定科目「課題探究」を中心としたカリキュラムの改訂を行う。 ○地域連携、高大連携による探究力・論理力の育成を図る。
4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントにより教育活動を精選し、校内体制を確立する。 ○医学コースカリキュラムの検証を行うとともに課題をまとめる。
5 業務内容の見直し	○すべての教職員の超過勤務時間を1箇月45時間 年間360時間以内とする。 ○業務の精選を図ると共に会議の持ち方を工夫する。